

	課題分析	授業改善策
1年	算数では、たし算やひき算の計算の知識・技能が定着している児童が多い。一方で、問題文を読んで立式することに苦手意識をもっている児童がいる。題意を理解し、その解決する力を養うことが必要である。	児童が問題文を読み取りやすいように、身近なものを用いたり、具体物を用いたりする。その上で、自分が考えた式を伝えたり、他の児童の考えを聞いたりすることで、思考力や表現力を育成する。
2年	算数では、たし算やひき算の筆算の仕方がよく身に付いている。一方、長さやかさ、時刻と時間などの単位や数量については、理解が不十分な児童が2～3割程度いる。 国語では、文章を書くことを苦手としている児童が多く、漢字の習得も不十分である。	数量や単位の学習では、実際に測ったり操作したりする活動を十分に行い、量的感覚を養う。その上で、単位の換算が的確にできるよう、練習問題を行う。 文章を書く学習では、伝えたいことを話し合ったりメモしたりする時間を取り、書く内容を十分に想起させる。なかなか書き出せない児童には、モデル文を視写させたり、漢字表を提示したり、スムーズに書き出せるような支援をする。
3年	調べ学習を行う際、インターネットや図書から必要な情報を取り出す力が弱い。 文章をじっくり読んで理解し、解答する力が低い傾向がある。 漢字の習得も課題のある子が多い。	課題を的確に捉え、どのような情報が必要なのかを明確にさせた上で、調べさせる。 対話的な授業や言語活動を重視し、話す力、読み解く力を確実に身に付ける。 じがくの時間等を活用し、自分に必要な学習に自主的に取り組めるよう、具体的な学習の内容や方法について適宜指導する。
4年	課題を見付けたり選んだりすることはできるが、課題解決の方法を見付け、追究することは苦手な児童が多い。 文字を丁寧に書く習慣が身に付いていない児童が多い。	児童同士の学び合いの場を保障したり、ICTの効果的な活用法を提示したりして、課題解決の方法や追究を促す助言をしていく。 授業では書く時間を確保して、丁寧に文字を書く習慣が身に付けられるようする。また、宿題の取組を認めることで、丁寧な文字を書く意識をもたせる。
5年	算数では、問題文を読み取る力が弱く、正しい演算決定ができていない。さらに、問題を解決していくための基礎となる計算（特にわり算の筆算）の知識・技能に課題がある。 すべてをタブレットに頼りがちで、自分で考える力が弱い。	算数では、習熟度別の実態に合わせて、前学年までの既習事項の復習を適宜取り入れながら、授業を展開する。 まず自分で考え児童同士で対話して学び合った上で、タブレットを使用し、考えを深めたり情報の補充をしたりする学習の流れをつくる。
6年	算数では、図形と文章題を読み解く力が弱い。図形や文章から何を聞かれているか理解し、立式することができていない児童が多い。 国語では、文章から適切な情報を取り出し、記述することが全体的に苦手である。	算数では、習熟度別の実態に合わせて、復習を適宜取り入れ、基礎基本の向上にあたる。図形では、ICT等を活用し、見える形にして理解を促す。 国語では、記述問題に取り組んだり、自分の考えを書いたりする機会を作り、授業の中で文章を読んで書く時間を確保する。

音楽	<p>歌唱や器楽における表現活動に進んで取り組む児童は多い。一方、自分の感じたことや考えたことを表現したり、歌唱表現や器楽表現に向けての思いや意図をもったりすることの困難さや苦手意識をもつ児童も多い。</p>	<p>曲想と音楽の構造や歌詞との関わりについて考えさせ、表現の仕方への思いをもてるようにする。</p> <p>自信をもって表現できるように、人の意見を肯定的に捉える雰囲気づくりや、日常的なペア活動等の充実を図る。</p>
図工	<p>絵や工作で表す活動を楽しみ、これまでに学んだ技能を生かして意欲的に取り組む様子が見られる。</p> <p>一方、表したいものを形にするために必要な工程を構想したり、見通しをもって時間内に制作したりすることが難しい児童が多い。</p>	<p>アイデアスケッチや計画書を活用し、自分のイメージを形にするために必要な材料や工程を考える時間を作る。また、制作に行き詰まった時に、相互鑑賞や対話を通して発想を広げる機会を設ける。</p> <p>授業ごとに進行状況の確認や、残りの時間数の確認を行い、制作時間を自分で管理する意識を養う。</p>